

2026 年度 事業計画

●はじめに

18年目を迎えたコーダイには通年講座、短期講座を含めて2,800名弱の受講生が入学されました。自らの意思で楽しく学ぶ生涯学習校として、受講生の皆さんにとってコーダイが「心地よい居場所」であり、「誇れるコーダイ」であると実感して頂けるような学校運営を行うことは、我々に課せられた大きな責任であります。

そのためには、快適な学習の場の提供が不可欠であり、受講生の皆さんに満足感、充実感を味わえるさまざまな施策を講じていく必要があります。全スタッフが「連携・協働・協調・互助」の意識を共有し、挑戦目標や事業計画の完遂に向けて行動してこそ、クラスやグループ、ひいてはコーダイ全体の成長と大きな成果に繋がるものと確信しています。

今後は、次世代を担うグループ長、スタッフ及びクラスディレクターには、新たな目標に向かってこれまで以上に重要な役割を担って頂くこととなります。日々の運営や学びの質を支えるだけでなく、コーダイ全体の方向性を深く理解し、現場へと具現化していく力が期待されています。そのためには、自らの担当範囲に留まらず、互いの立場や役割を尊重しながら協力し合い、一段高い視点から全体を見渡して、判断や提案を行っていく姿勢が不可欠です。経験や成功だけでなく、失敗から得た学びをも共有し、変化を恐れずに挑戦し続ける。その積み重ねこそが、コーダイに新しい風を吹き込み、次の成長の原動力となります。

また、こうした過程に主体的に関わることで自らが大きな「やりがい」のある活動であるという信念を持つことも重要です。さらには、コーダイの二つの核である「生涯学習」と「社会への参加活動」についても、未来を見据えて運営、活動方針を検証しながら進化させていくことが重要です。これにより、より多くの方々が「楽しさ」と「生きがい」を実感できる新たなステージへと踏み出すことを目指します。

今年度も「現状を打破し、未来へ挑戦する」という強い意志を堅持し、お互いの意欲を高めながら、新しいことへの挑戦を楽しみ、達成感を味わえるよう活動を進めていきます。

●事業計画

否定から肯定へ、そして創造へ。マンネリに陥らず、新しいことへの挑戦意欲を喚起することで、コーダイのさらなる飛躍を目指します。そして、これまで継続してきた活動内容の発展、完結を目指して、次のような事業活動を実施いたします。

1. 「心地よい居場所」と「誇れるコーダイ」創造を継続

受講生にとってコーダイが「心地よい居場所」であり、かつ「誇れるコーダイ」であると実感できよう活動継続いたします。この目的達成には、受講生一人ひと

りの協力も不可欠であります。楽しく学ぶ環境の場を実現させるために、まずは受講生が協調性を発揮し、主体的に楽しいクラス創りに注力できるようサポートいたします。その結果として、満足感、充実感を体感できる楽しい学びの場を提供するとともに、現在の幸せ感をより多くの皆さんと共有できるよう「社会への参加活動」にも繋げていきます。

2. 快適な学習の場の提供促進を計ります

従来から通年講座、短期講座、教養講座を含め楽しく学べる快適な学習の場の提供に取り組んできましたが、今後はその内容をさらに深化させていきます。そして、豊富な科目揃え、科目力アップ、新規科目の開発、既存科目のバージョンアップや魅力的な講師の招聘などのソフト面での充実については、主として教科研究グループが担当します。一方、教室、設備の改善や受講生の満足度を高めるクラス運営などのハード・ソフト面については、主として学習グループが担当します。これらソフト面とハード面が有機的に融合することにより、他校を一步も二歩もリードできる生涯学習校へ成長できるものと確信しています。

そのためには、学習グループと教科研究グループが車の両輪となり、情報を共有しながら協働、補完することで、活動がスムーズかつスピーディに進み、さらなる発展と新たな創造、飛躍に結びつけていきます。そして、コーダイだからできる、コーダイだからやらねばならない独自性を活かし、コーダイの魅力度をさらに高める生涯学習校を目指し続けます。

3. 新学習システム構築を完結させます

従来の活動をさらに一步前進させるために、昨年度は副理事長、副理事長経験者で構成する「新学習システム構築委員会」を発足させ、環境変化の先取りや未来を見据えた魅力的でワクワクする新学習システムの構築を目指して検討を進めてきました。すでに一部は実施しているものもありますが、現在審議中のテーマも含め、今年度は残された課題の内、優先順位の高いものから順次対応し、新学習システムの完成度を高めていきます。

4. 社会への参加活動のあらたな施策策定

コーダイの活動の核の一つである「社会への参加活動」は、もう一つの活動の核である「生涯学習」と比較すると、残念ながら現状では十分上手くいっているとは言い難い状況です。そこで、昨年度からこの活動について検証を行い、新たに受講生がこれまで以上に参加し易い活動テーマの紹介を開始し始めました。

この結果も踏まえ、本年度はこの活動をさらに前進させるために、コーダイ関係者の意識改革や啓蒙を図りながら、時代にマッチした新たな活動方針と具体的な活動内容を確認させます。同時に全校的に取り組みやすい環境作り、およびシステム創りを推進し、活動の定着化と活性化を目指して活動していきます。また、引き続きSDGs活動にも取り組んでいきます。

5. 人材発掘と人材育成の強化活動を継続

組織運営において、組織が大きくなればなるほど、また、業界のトップを自他とも

に目指す過程において、人財の発掘及び育成が極めて重要であることは言うまでもありません。昨年度は、コーダイの核であるCDの人材発掘システム構築に着手しました。しかし、まだ一步前に進んだ初期段階であり、このシステムの完成までにはまだまだ時間を要します。今後はより深い検証を重ねながら、実効性の高い人材発掘システムの定着と運用を目指していきます。同時に、人材発掘だけでなく人材を真の「人財」へと育成するため、従来の研修制度の見直しや人材育成活動の充実にも引き続き注力し、豊富な人材確保に努めます。

6. 収益事業や寄附金収集施策の構築

事業活動の検証を継続しながら、他グループ、CDや校友会とも連携した協働活動をも取り入れ、多くの方が参加したいと思われる活動を目指します。

また、寄附金については、寄附金収集だけでなく寄附金の活用内容を広く知らしめる活動を他グループと協力しながら進めていきます。

7. 情報管理とセキュリティの強化

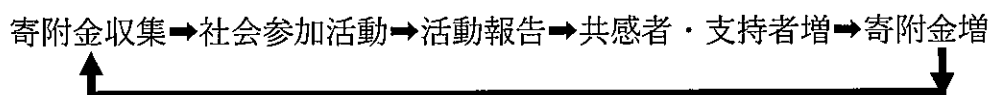
昨年度に引き続き、コーダイ関係者の情報管理やネットワークセキュリティのさらなる強化を図り、コーダイの基本資料の管理や昨年度取り組めなかった応募者動向の分析システム構築を進めていきます。

8. コーダイの認知度アップに結び付く活動に注力します

コーダイの情報ツールの活用方法を再検証し、コーダイ関係者、一般市民が知りたい情報、また知らせたい情報をタイムリーに発信するだけでなく、その効果の度合いを検証できるようにしながら認知度アップに繋げていきます。

*HPにアップしている情報を再検証し、コーダイの日々の活動情報を頻繁にアップします。

・特に情報発信が不足している社会への参加活動、子ども教室活動情報発信に注力します。



*CD、スタッフを巻き込んだ広報活動体制を構築し、その効果を高めます。

9. 総務と財務の強化

昨年度検討しましたコーダイ全般の各種規定の統括、管理システムの構築を図り、スムーズな運用ができるようにします。同時に対外折衝の窓口としての活動を各グループの協力を得ながら継続して進めていきます。

経理面では、デジタル推進プロジェクトの支援の下、導入しました交通費の電子支払いシステムのスムーズな運用を図ります。また、費用アップの問題など、コーダイを取り巻く経費面での対応を臨機応変に行います。同時に、精度の高い予算作成、予算と実績の差異検証、原因究明を図りながら財務面での強化を図っていきます。

10. 募集活動の検証と拡充

コーダイ関係者全員活動と位置付けて、コーダイの魅力度のアピールの仕方、募集情報の周知方法、応募者にとってより役に立つ募集内容の伝え方、フォロー体制の

在り方、費用の配分などを含め、募集活動の在り方を再検証し、今以上の活動の効率化や高効果を図ります。昨年に引き続き 3,000 人以上の応募者確保や多くの新人確保を目指した活動を行います。

11. デジタル化推進活動の加速

昨年度の電子決済システム、交通費の電子申請に引き続き、CD の交通費の電子申請、講座実施報告書などのデジタル化による業務の効率化、ペーパーレス化などをさらに加速させた活動を推進します。

●学習グループ

<はじめに>

2026 年度 学習グループのスローガン

「快適な学習環境の提供と居心地のよい居場所の提供」

今年度は、2025 年度に取り組んできた活動をより一層充実させる年にします。そのために、学習グループ内の情報共有を密に、かつ、CD の皆さんとの対話を通して快適な学習環境づくりを行います。受講生の皆さんへは、適時、的確な情報提供を行い、居心地のよい場所となるように努めます。

事業計画

1. 人材の発掘と人材の育成

・人材の発掘のために

2025 年に人材発掘の年間スケジュールを提示し実施したが、前向きな提言として CD にふさわしい人材の推奨、推薦を 1 学期と 3 学期の 2 回行い、人材プールを行うことにします。これにより、適正な人材の発掘を可能にするとともに「人材アーカイブ」を作成し、人材資料として保存し継続活用します。

・人材の育成について

新任 CD の育成プログラムの充実を行います。

1～2 月に新任 CD 研修を実施、3 月はコミュニケーション研修を行います。

4 月以降も希望者対象のパソコン研修を通年行い、スキルアップを図ります。

*研修内容：1 学期 Word・Excel⇒2 学期 PPT・チャット AI⇒3 学期 Google

2. 社会への参加活動（より一層、実体験型の活動を推進）

・意識の醸成を行います

1 学期の「社会への参加活動（準備活動）」の時間にオリエンテーション動画を用いて“出来る範囲で少しでも人のお役に立つ活動を！”の意識の醸成を図り、体験ボランティア活動メニューを提示し、2 学期以降クラスもしくは班単位での参加を促す案内を強化していきます。

・実践体験メニューの提供します

河川敷清掃、大阪城公園周辺の清掃活動、大阪マラソンボランティア募集、OWF ボランティア、救命救急（AED）講習、認知症サポーター養成講座等々「社会参加

活動支援チーム」を中心に実施します。

- *案内→取り纏め→体験→報告書作成→HP掲載（PDCAサイクルの推進）
 - ・科目やクラブの社会参加活動紹介（ホームページ上で紹介）
「朗読を楽しむ科」「ディスカバー大阪まち歩き科」「歌を愛し歌を楽しむ科」
ATCでの絵画、写真、似顔絵展（学習成果発表会）の紹介
オカリナ倶楽部、マジック倶楽部の活動紹介
 - ・コーダイグループ「ボランティアフェスティバル」参加者募集
シルバーアドバイザー（SA）認定証授与及び内閣府エイジレス章受賞者紹介
ボランティア活動団体、個人の紹介を行います。
 - ・ボランティア活動を行っている受講生の掘り起こしを各科目CDを通して情報収集
します。（例：社会参加活動(準備活動)における個別発表内容→表彰制度AWARD）
へ繋げていきます。）
3. コーダイ3大行事のさらなる発展と充実を図ります。
- ・入学式；2026年4月6日を振り返り、次年度の改革、改善策を検討します。
 - ・コーダイ健康まつり:参加者UP+体力測定結果のフィードバック体制の確立を目指
します。
 - ・コーダイフェスタ:一層の充実感を得られるために尽力します。
例：募集期間内の開催を2027年の課題として検討します。
4. 教室環境の充実:機器の充実と取扱いの指導
- 2026年度は新規の教室として“長堀橋教室”を使用します。
スローガンに基づき、教室環境改善チームを発足し機器を含めた環境整備に注力
します。（別途、組織図参照）
- *プロジェクターの新規入替と配置を行います。
 - *機器取り扱い研修を定例化します。（新任CD研修時と2学期スタート前）
 - *長堀橋教室の環境チェックと他の教室環境の一層の充実を目指します。
5. CD業務改善の取り組み
- ITリテラシーの活用を行います。
曜日担当とCD間の報・連・相をLINE活用した迅速かつ簡略化を図るシステム
作りにトライします。
- *プロジェクトを立ち上げます。
リーダー：多賀、メンバー：山脇、井口、坂本、津川
検討内容：講座実施報告書、一口レポート、講座関連申請、交通費申請、立替費
用等請求申請、行事に伴う報告内容他

●教科研究グループ

教科研究クループの使命は「魅力ある講座」を提供する事です。教科研究グループを担当して3年が経過いたしました。その間、毎年応募者が着実に増加しており、行ってきた取り組みは受講生の方に評価頂けたと考えます。そこで本年度は従来の取り組みの

「継続と定着」を行います。加えて、組織として今後も継続して「魅力ある講座」を提供できるよう特に本年は後継者への引継ぎを実施いたします。

一方、応募頂く方の増加により応募者、特に継続してコーダイの受講を希望される方の約 17%は受講頂けない状態となっており、コーダイとして大きな課題です。そこで対策の一つとして、本年度は短期講座をより充実させ、応募頂ける方々にコーダイでの学びの機会提供を拡大します。

1. 新科目提案制度

- ・2024 年度開講科目より従来の科目提案制度に加えてオーダーメイド提案制度を実施し、この3年間、毎年40件を超える提案を頂きました。
- ・コーダイでは様々な科目提案を検討してくれるという噂が拡がり、去年はスタッフ、受講生のみならず、講師の方や講師からお聞きになった学者等、さらに現在はコーダイを受講されていない方からも提案を頂きました。
- ・その結果、他には無い科目も検討できていますので、現状の提案制度を「継続、定着」させます。

2. 既存科目の改善

- ・既存科目の魅力向上のため、実施している科別アンケートには貴重な意見も多くありますので本年度は他科目への紹介も行っていきます。
- ・今年度はCDの方と講座改革委員が検討し、改善した課題を他科目に横展開できるように体制作りを行います。
- ・科目内容紹介冊子（おすすめの講座アラカルト）の充実を図ります。

3. 短期講座の充実

- ・応募者の増加対策としての開講科目数を増やすよう努めます。
- ・通年講座では実施が難かしく他に例の無いコーダイの売りとなる講座の開講も検討いたします。
- ・通年講座の実験講座の開設も検討いたします。

4. 受講生への学習の場の提供

・教養講座

長期休暇(夏、春)に加え開講中も検討します。

他には無い内容講座中心に、コーダイ生だから受講出来る講座

・公開講座

市民公開講座（6回）、大阪府との共催事業

府下全ての市町村、大阪市の全区の図書館他、毎回約110箇所チラシ、ポスターを配布 ⇒ コーダイのPRにも貢献

阪神奈大学、研究機関生涯学習ネット 主催 公開講座（1回）

5. 人材発掘

- ・オーダーメイド提案構築に応募頂いたメンバーの中で、その科目のCDをやって頂く方も出てきました。今後「提案、企画、実践」として、自分の好きな講座のスタッフになって頂く方を増やすよう努めます。

・現状の取り組みを今後継続して実施出来るよう後継者への引継ぎを行います。

6. 他団体との交流

・情報交換の機会として、他の高齢者向け学習組織との交換の場である大阪シニア等に参画いたします。

●事業グループ

事業グループを構成する、事業推進、子ども事業、ファンド、校友会の連携を一層強化し、同じ基本構想の基に活動を目指します。

受講生の皆さんの各活動への積極的な参加も視野に入れていきます。

<事業推進チーム>

受講生の皆さんに楽しんで頂ける催しとして、ここ2年好評でしたコンサート、大阪再発見ツアーと称する大阪近郊における農産物収穫体験を企画いたします。

多くの皆さんに参加して頂いてます冬のマラソンボランティアも継続します。

これからの皆さんの生活に役立つ講習として、大阪府警の高齢者詐欺対策、東消防局の救急救命講習会、コーダイの社会参加活動の一環として大阪の伝統文化支援や棚田契約に基づく新米寄付も続行します。

<子ども事業チーム>

子ども科学フェスティバル、子どもプラザ、伝統文化親子教室等の開催は子供及び保護者の方々が楽しみにされており、また、自治体、公的機関の補助も得ており、コーダイの一つの顔であると認識しています。

今後は受講生の各フェスティバルへの参加によるお手伝いをお願いするとともに組織の見直し、再確立に向けて動いていきます。

<ファンドチーム>

多くの皆様から頂いた寄附金の使途につき各グループに偏りがないようにします。

コーダイのさらなる発展に向けて、皆さんの支持、ご支援は不可欠でコーダイの動きを多くの方々に知って頂くための告知の仕方の検討を重ねて、寄附と言うご賛同者の増加に結びつけたいと思っています。

<校友会>

高大同窓生による各地区での活動主体の統括である校友会との連携を強化します。

具体的にはコーダイと校友会合同での社会参加活動の実施に向けた始動を先ずは目指します。

コーダイと校友会の事業発展、さらなる充実に繋げたいと思います。

●情報管理グループ

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理、入学案内などの発送、受講生名簿、名札、受講生台帳など入学準備の体制づくりを行います。

2. 受講生、講師、スタッフのデータベース化を推進し、個人情報の管理運営に努めます。
3. ホームページでは募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信し、申込フォームからの2,000件以上の申込みを目指します。また、応募者動向の分析システムを構築し募集活動に活かします。
4. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書、感謝状の発行を行います。
5. 事務所内で古いバージョンパソコンの入替を実施、全パソコンのセキュリティ対策の強化など機器の保守管理を行います。
6. パソコン、スマホのスキルアップ講座をCD、スタッフ向けに実施します。
7. オンラインシステムの理解度を高めることを目的に他グループと協働し、スキルアップを図ります。

●広報グループ

コーダイの認知度アップに結び付く活動に注力します

コーダイの情報ツールであるホームページ、LINE カフェを有効活用し、コーダイの関与者、一般市民が知りたい情報、知らせたい情報をタイムリーに発信しながらコーダイの認知度を高め、愛称コーダイを浸透させるように努めます。また、その効果の度合いを検証できるようにします。

<HP・SNS活用>

1. コーダイの認知度を高めるための最大の情報ツールである HP を有効活用します。
コーダイの活動状況を HP に頻繁にアップして訪問者数の増加を目指し、認知度を高めます。受講生のための「受講生サイト」を活発に利用し、全受講生との情報共有を図ります。
2. SNS に関しては、コーダイの公式 LINE（ラインカフェ）がコーダイからのイベント情報、新着情報や、募集関係の情報をいち早く伝えるツールとして浸透し、コーダイ生にとっては必須のツールとなっていますので、全受講生の登録を推進します。
・2025年1月時点 2,512名→2026年1月現在 3,484名（ブロック 576名）

<広報ツール>

1. 広報誌「れいんぼー」の内容を見直し、受講生との繋がりを深めます。読者からのお便りや面白いネタを掲載するコーナーを作り、掲載者には謝礼(記念品)等を贈るなどして、「れいんぼー」が受講生にとって身近なツールとなるようにします。
2. 募集案内を見直し、表紙は配架した時に目立つようにし、わかりやすく見やすい内容を心掛け、簡単に応募できるようにします。それが募集人数の増加に繋がるようにします。
3. 広告掲載企業、団体を増やすために伝い手を探して営業活動を行い、それによりコーダイの認知度を上げます。

<パブリシティ>

1. 昨年は募集時期に合わせて読売ファミリーに広告を出し、QRコードから訪問者数を検証できるようにしました。その結果、新人獲得に効果がみられましたが、費用対効果をさらに考えて、今年は様々なメディアを使った広告を検討します。
2. 定期的に配信しているマスコミ向けのメルマガの配信数を増やし、コーダイへの関心を高め取材依頼がくるように内容を再検証します。

<SDGsの推進>

1. 「コーダイゆずりば」サイトが活発に活用されるように、事務所スタッフ全員への登録依頼はもちろんのこと、入学式、公開講座等々、あらゆる機会を捉えて、CD、受講生の方々へ登録を依頼し、出品物の増加及び譲渡成立を目指します。また、サイト上では交渉が成立しにくい掲載商品の譲渡成立を増やすために「コーダイゆずりば」フェアを開催し、活性化を促します。
2. 環境問題の取り組みの一環として印刷物、コピーの削減に取り組みます。印刷状況を把握し、印刷部数削減の意識を高めます。

●総務グループ

快適な学習の場の提供を目指す一環として、2026年度より長堀橋教室の運用を開始しますが、2,800名を超える受講生を迎え、良質で安定した運用を図るためには、受講環境のみならず、タイムリーで適切な対応が必要となります。

そのためには、スタッフ、CDがワンチームとなってスキルアップを図り、的確な情報共有が必要となります。

そこで総務グループとして以下の具体的方策を事業計画として掲げ、実行して行きます。

<経理チーム>

1. 昨年度のスタッフ交通費支払いに続き、デジタル推進チームと協業してCDの交通費支払いの電子化を実施し、精度の高い経理業務の効率化を推進します。
2. 予算と実績のタイムリーなチェックを実施し、差異検証、原因究明を行い適切な予算管理の推進を図ります。
3. 金利上昇を勘案し、手持ち資金を計画的に定期預金として運用します。

<事務局チーム>

1. 備品や事務用品の発注管理の徹底を図ります。
事前申請の徹底を図ることで、在庫や整備状況を把握して一元的な発注管理を行い、無駄や重複を省き経費削減の一助とします。
2. 組織全般に関する諸規程のさらなる整備、運用を図ります。
組織の活性化のためのスムーズな世代交代や、安定した組織運営のため規程の整備を行い、周知徹底を図るとともに既制定の文書管理規程等の諸規程に基づいた管理運用の徹底を図る。そのためにスタッフのスキルアップのための研修講座を設ける。

3. デジタル化推進活動の協業化を図ります。

個人情報の一元データ化管理、講師、スタッフ、CD 交通費等の電子管理の一元管理を図り、効率化と管理精度の向上を目指します。

4. 2027 年度以降の良質で適切な教室確保を目指します。

2026 年度より長堀橋教室の運用が開始されるが、さらに受講生がより快適に学べ、中長期的に安定して運用できる同等以上の良質な教室の探索、確保が必要です。

●デジタル推進プロジェクト

本プロジェクトでは、引き続き業務の効率化、利便性の向上及びペーパーレス化を推進し、デジタル化による定型業務の改善を目指します。あわせて、業務のサポートツールとして生成AIを活用した効果的な事例についても検討を行います。

1. 業務効率改善の取り組み

・CD交通費の電子申請システムの構築

コーダイHPのスタッフサイトから、CD交通費（規定交通費、実費交通費、校外学習交通費）の申請を行える仕組みを構築します。これにより、教務事務におけるCD経費入力業務の効率化を図ります。なお、将来的には領収書等の電子帳簿保存法への対応も視野に入れます。

・講座実施報告書のデジタル管理システムの構築

従来、紙ベースで運用していた講座実施報告書を電子データによる管理へ移行します。紙で提出された講座実施報告書は電子化し、サーバーへアップロードしたうえで、スプレッドシートにより一元管理を行います。

また、各サテライト教室にスキャナーを設置し、講座実施報告書をワンクリックでサーバーへアップロードできる環境を整備します。これにより、承認手続きの円滑化を図るとともに、年間2,100ページ以上に及ぶ講座実施報告書の電子化による保管スペースの削減及び検索性の向上を実現します。

2. 生成AIの活用

① 背景と課題

現状では文書業務が多く、業務ノウハウが担当者個人に属人化しやすいという課題があります。その結果、担当者によって文書の品質や作業効率に差が生じる恐れがあります。

そこで、「誰が担当しても同じ品質で業務を遂行できる」環境の実現を目指します。

② 生成AIの役割

生成AI（ChatGPT、Gemini）は、「書く・整える・標準化する」作業を担い、文書作成や表現のばらつきを抑え、業務の効率化と品質向上を支援します。

また、NotebookLMは文書を蓄積、整理し、必要な情報を検索、参照できる仕組みとして活用します。これにより「人に聞かなくても答えが見つかる」ナレッジ共有環境を構築します。

③ 活用例

- ・ CD業務マニュアルの整備

生成AIを活用してCD業務マニュアルを作成し、NotebookLMに蓄積することで、必要な情報が即時に検索できるようになります。

- ・ レポート、アンケートの分析

一口レポートやアンケート結果を生成AIで分析し、傾向や改善点を可視化することで、業務改善に繋がります。

● 募集委員会

通年講座受講者 2,400 名以上の達成を目標とします。

コーダイが初めての方の受講者数の増加が今年度も大きな課題です。800 名以上が目標となります。

そのため、コーダイの魅力を知って頂くため、実施予定の講座や行事の内容告知を新年度の早い時期から行う準備をします。

各自治体に対する募集に関する広報掲載依頼についても、できる限り早い時期から活動を開始します。

定員オーバー科目抽選による選外者への対応については、不公平のないことを最重視していますが、1 次、2 次募集を連続で選外になった方々の声には応えきれておらず、対応策を検討します。

募集開始から最終確定までの日程、講座説明会の場所などは概ね変更はありませんが、現受講生の発信を中心として、様々な募集活動を目指します。

多くの皆様に、魅力あふれるコーダイを楽しんで頂けるよう全力で取り組んでいきます。